

## 第 50 回長野県理学療法学会大会表彰演題

### 最優秀賞受賞演題

演題名：「超高齢者における FIM トイレ動作と認知機能の関係性の検証」

演者所属：諏訪共立病院

演者氏名：長田 澄敏

超高齢者のトイレ動作自立に認知機能が関連するか検討することは臨床上重要である。多量のデータを用いて、科学的に分析されていた。臨床でのアプローチや介護ケアプランを立てる上で、非常に参考になると考えられる。

### 優秀賞受賞演題（2 演題）

演題名：「間欠性跛行を呈する脊柱管狭窄症患者への介入～定量的歩行評価を指標に～」

演者所属：松本歯科大学整形外科

演者氏名：岡崎 瞬

客観的評価として、画像の比較の他に加速度センサーを用いて定量的に数値を出して治療介入前後の変化を示し、効果をわかりやすく示された手法は、今後の臨床や研究を行うにおいて大切である。

演題名：「脊椎術後患者の退院時の連続歩行距離に関連する術前の身体機能因子の検討」

演者所属：社会医療法人抱生会 丸の内病院リハビリテーション部

演者氏名：赤羽 陽太

脊椎術後患者の退院時の連続歩行距離に関する予後を術前の身体機能因子から予測することは、臨床において有用性が高い。今回、多数の症例から多くの項目を調べてまとめられた。

## 学術奨励賞受賞演題（2 演題）

演題名：「歩数シート導入により歩行機能及び生活範囲の維持を図ることができた球麻痺型筋萎縮性側索硬化症患者の一症例」

演者所属：佐久総合病院

演者氏名：桑原 功匠

ALS 患者の活動量を長期にわたり、スマートフォンのアプリなどを使用し計測できていた点や、患者と目標をわかりやすく可視化した点は、患者のモチベーションを維持する手法として評価できる。

演題名：「健康関心度の高い地域高齢者と現役就労者が健康増進事業へ求めるもの」

演者所属：相保健康スポーツ医科学センター

演者氏名：田邊 樹里

多くの地域や組織で理学療法の健康増進（予防）事業への介入が検討される中で、対象者の健康増進事業への参加理由や支援内容に求めていることについての報告は独自性や新規性がある。運動の大切さの意識はあっても具体的な運動の仕方がわからないので指導をしてほしいという要望が存在することの報告は、市町村単位での介護予防などの事業に理学療法士が関わるに於いて有用であり貴重な発表であった。

## 特別賞受賞演題

受賞者なし